



しょうまん

小満（20日）… 園庭の緑がぐんぐん膨らみます …

私の好きな言葉に、「春は芽のもの、夏は葉のもの、秋は実のもの、冬は根のもの、これ全て自然からの贈り物」というものがあります。この時期、春に芽吹いた小さな芽や生き物などの命が、太陽の光を浴びてぐんぐん成長しています。小満とはまさに、その成長が際立つ季節です。日本は四季の移り変わりがとても特徴的で、長年にわたってそれに応じた生活を工夫する中で、豊かな文化が育まれてきています。季節の移ろいに気付くセンサーの感度を高められたら、さらに潤いのある楽しい生活ができるのではないのでしょうか。

<紅花棠 ベにばな さかう 5月26日~30日>

小満の次候は「紅花棠」です。昔から染め物などに使われた紅花が咲き誇る頃です。このところ、園内で目立つ赤い物と言えば、花よりも実です。築山の上の低木は、私自身もずっと見ていたはずでしたし、今まで勤務してきた園にもあり、知っている木だったのですが、私もここ数年、実が成った様子に全く気が付きませんでした。柔らかく艶やかで、熟した実は甘酸っぱく、初夏を感じられる『ユスラウメ』です。漢字だと「梅桃、山桜桃」と書きます。何となく味が想像できませんか。

今年は、子どもたちが味わうことができませんでした。来年を楽しみにしててくださいね。

<紅花はありませんが、赤い実はあちこちに…>



園庭の真ん中あたり、雲梯の奥のフェンス際あたりの中くらいの木の上の方に赤い実がなっていました。柔らかくて艶やかな様子は、ユスラウメに近いのですが、もっと大きくて楕円形です。私も初めて木に成っている様子を見ました。こちらは、『グミ』です。ユスラウメと同様、ここ数年、実がなっている様子を見た記憶がありません。成っていたのに気付かなかったのか、それとも今年はやはり木々たちにとって過ごしやすい春だったのでしょうか。



「あれ、君は前からここにいた？」と…、築山の上で、なぜか去年までは気付かずに見過ごしていたようです(13日)。



今年は園庭の自然たちは、安心して実を付けることができているのかも知れません。一週間で、こんなに真っ赤に色付きました(20日)。この可愛い実は、初夏の恵みちよっぴり甘酸っぱい、『ユスラウメ』です。

こちらは、裏庭の端と竹林の根元の一角に実がなっていた『いちご』です。このコラムで、園内のいろいろな植物を紹介する中で、学級名になっている、たんぽぽ、すみれ、さくら、かえで、あんずは存在を把握していたのですが、いちごはないかも？と思って探していました。

4月の後半、黄色い花を見付けて、花が終わってしばらくすると実が大きくなってきて、『ヘビイチゴ』だと分かりました。ちよっと怖そうな名前ですが、その由来も定かではありませんが、かわいい花と実は、子どもたちにとっては身近な存在と言える植物です。